



CSR報告書

2023



八千代工業株式会社



基本理念

人 間 尊 重
顧 客 第 一

社 是

わたしたちは、世界的視野に立ち、
お客様の満足のために、
卓越した技術と特長ある製品を供給する。

ヤチヨグループが目指す目標

ヤチヨグループはヤチヨ企業理念の実践を通じて、
「社会からその存在を認められ、期待される企業を目指す」

わたしたちは企業理念に基づき行動規範を定め、
企業価値を高める活動に努めています。
CSRの取り組みはこちらからアクセスしてください。

行動指針

- 常に夢をもち若さを保つこと。
- 感性を磨き技を鍛えること。
- 安全で明るく調和のとれた環境を作ること。
- 時間と独創性を重んじること。
- 自らの目標に向かって粘り強く努力すること。



八千代工業 CSR



会社概要

社 名 八千代工業株式会社
英 文 社 名 Yachiyo Industry Co., Ltd.
設 立 1953年8月27日
代 表 者 可知 浩幸
資 本 金 36億8,560万円
正 規 従 業 員 単独：759名 連結：6,404名
※2023年3月31日現在
本 社 〒350-1335 埼玉県狭山市柏原393番地
電 話 04-2955-1211 (代表)
上場証券取引所 東京証券取引所スタンダード市場



目 次

ヤチヨ企業理念	01
八千代工業について	03
沿革	05
トップメッセージ	07
CSRマネジメント	09
環境マネジメント	11
安全衛生マネジメント	17
サプライチェーンマネジメント	20
人材マネジメント	21
社会貢献	23
コーポレートガバナンス	25
環境データ	29
財務・非財務ハイライト	31

製品ポートフォリオ

クルマの機能部品（サンルーフ・燃料タンク）の開発・製造と樹脂製品・補修パーツの製造などを行っています。

四輪

樹脂製品 … 23億円

二輪・四輪向けの樹脂製部品を製造しています。高い気温や紫外線の影響などを受ける厳しい環境下でも高い品質を実現しています。



補修パーツ … 56億円

クルマを修理する場合などに交換で必要となる補修用の樹脂および板金部品を、生産から梱包まで一貫して手掛けています。



燃料タンク … 466億円

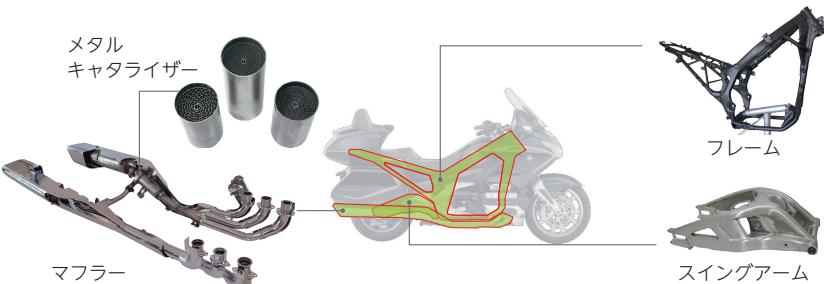
衝突時などの安全性や環境規制への対応に加え、広い車内空間に寄与するために、薄型化や形状を進化させた製品を供給しています。



二輪

二輪部品 … 720億円

子会社である合志技研工業グループで、排気部品、骨格部品などを製造しています。



その他 … 68億円

運転補助装置

四肢に不自由を感じる方の運転をサポートする装置の適合開発から製造を担っています。



CFRP製品

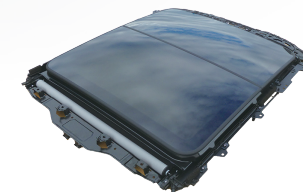
先端素材のCFRP※を用いた製品開発を行っています。



※Carbon Fiber Reinforced Plastics (炭素繊維強化プラスチック) の略

● サンルーフ … 549億円

基礎研究から量産までの一貫体制を強みとし、開口面積あたりの重量において、世界トップクラスの軽さを実現しています。



合志技研工業は、1974年にヤチヨ、Honda および三恵技研工業株式会社の3社合併で設立され、2002年にヤチヨが子会社化しました。



グローバルネットワーク (2023年3月現在)

中国 2拠点

- 八千代工業 (中山) 有限公司
- 八千代工業 (武漢) 有限公司

アジア 7拠点

タイ

- サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド
- サイアム ゴウシ マニュファクチュアリング カンパニー リミテッド

ベトナム

- ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド

フィリピン

- ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド

インド

- ヤチヨ インディア マニュファクチュアリング プライベート リミテッド
- ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド

インドネシア

- ビー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア

日本 8拠点

- 本社
- 柏原工場
- 鈴鹿工場
- 亀山事業所
- 埼玉研究所
- 栃木研究所
- 合志技研工業株式会社
- 株式会社ウエムラテック

米州 6拠点

米国

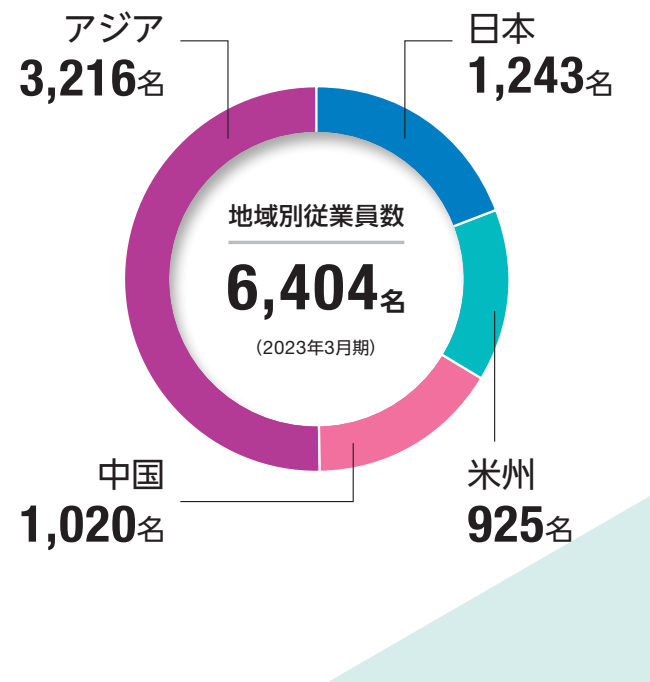
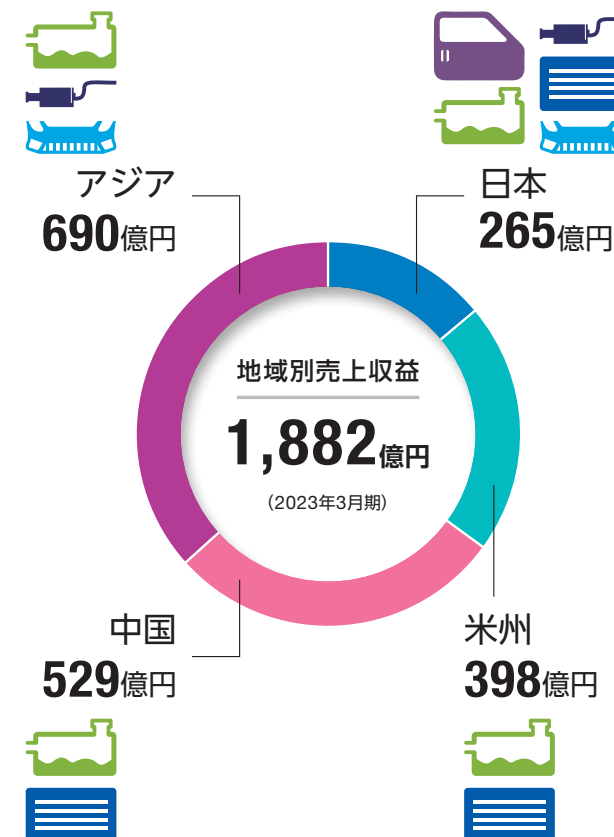
- ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド
- エー ワイ マニュファクチュアリング リミテッド
- ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド
- ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アメリカ エル エル シー

メキシコ

- ヤチヨ メキシコ マニュファクチュアリング エス エー デ シー ブイ

ブラジル

- ヤチヨ ド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ベサス リミタダ



COMPANY

1953.8.27

八千代塗装(株)を設立

1960

鈴鹿工場を設立



1968

八千代工業(株)に
商号変更

1972

柏原製作所
(現 柏原工場)を設立

1986

栃木研究所を開設



1989

初の海外拠点を
カナダに設立
(現在は全事業を譲渡)

1997

タイにサイアム ヤチヨ
カンパニー リミテッド
を設立米国にヤチヨ オブ
アメリカ インコーポ
レーテッドを設立米国にエー ワイ
マニュファクチュアリング
リミテッドを設立

1998

亀山事業所を設立



1999

米国にユー エス ヤチヨ
インコーポレーテッドを
設立

2000

米国にヤチヨ
マニュファクチュアリング
オブ アラバマ エル エル シー
を設立
(2014年10月 ヤチヨ
マニュファクチュアリング
オブ アメリカ エル エル シー
に社名変更)

2002

中国に八千代工業
(中山) 有限公司を
設立

2004

ジャスダック証券取引所(東京証券取引所
JASDAQ(スタンダード))に株式を上場

2005

中国に八千代工業
(武漢) 有限公司を設立

2009

ブラジルにヤチヨ ド ブラジル
インダストリア エ コメルシオ
デ ペサス リミターダを設立

2008

インドにヤチヨ インディア マニュファクチュアリング
プライベート リミテッドを設立

2022

東京証券取引所 JASDAQ(スタンダード) から
新市場区分(スタンダード市場)へ移行

2012

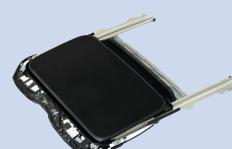
埼玉研究所を開設

メキシコにヤチヨ メキシコ
マニュファクチュアリング エス
エー デシー ブイを設立インドネシアにピー ティー
ヤチヨ トリミトラ インドネシア
を設立

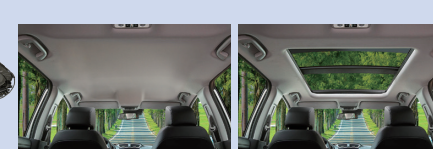
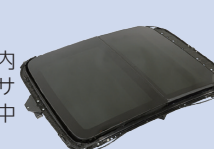
PRODUCTS

サンルーフ

1986

サンルーフを
柏原製作所で
生産開始

2014

開口部が広く、快適な室内
空間を実現するパノラマサ
ンルーフを八千代工業(中
山) 有限公司で生産開始

開発中

次世代車向けのガラ
ストップに適した軽量
薄型モジュール製品

厚さ約70%削減(従来比)

燃料タンク

1977

鉄製燃料タンクを
柏原製作所で
生産開始

1999

日本初量産
4種6層樹脂製
燃料タンクを柏原工場
で生産開始

2017

機能部品を内面から溶着し、燃料蒸散量を
さらに低減させた燃料タンクをヤチヨ マ
ニュファクチュアリング オブ アメリカ エル
エル シーで生産開始

開発中

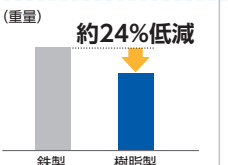
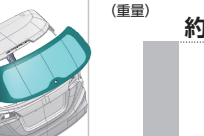
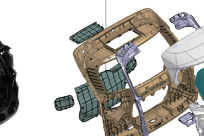
低炭素社会に貢献する水
素をエネルギーとする燃料
電池車向けタンク

樹脂製品

1982

樹脂成形部品を
生産開始

開発中

構成する部品の統合や削減などを行い、樹
脂ならではの軽さを生かした樹脂バックドア
モジュール

その他

1972

「ステップバン」の完成車組立により
四輪受託生産スタート(現在は終了)

2012

運転補助装置の
開発・架装を開始

2014

陸上競技用
車いすの製造開始

2017

「Yachiyo Custom Parts」を
発売

2021

「ドライビングシミュレーター」を生産開始



カーボンニュートラルの達成と 今まで以上に皆様から存在を 期待される企業を目指します

代表取締役社長

可知 浩幸

企業が果たすべき社会的責任として、環境、労働、安全衛生、社会貢献などの活動が求められています。中でも環境については、2050年までに温室効果ガスの排出量をゼロにする、カーボンニュートラルの達成を目指し世界各国で取り組みが行われています。また、自動車業界では二酸化炭素を低減させるために電気、水素、合成燃料（e-fuel）などの代替エネルギーへの転換やエネルギーの多様化など、環境に配慮した取り組みが加速しています。

このような背景を踏まえ、本メッセージでは企業

が果たすべき社会的責任の中でも環境に特化し、お伝えします。

ヤチヨでは、重点課題として環境法や環境規制への対応、省エネルギー化による二酸化炭素の低減活動などに取り組んでいます。昨年はカーボンニュートラル達成に向けたロードマップを策定し、ヤチヨグループとサプライチェーン全体の目標年度をそれぞれ決めました。まず、自社領域であるスコープ1・2では、目標年度を2040年に決めました。

具体的な施策としては、これまでの省エネルギー化の活動に加え、再生可能エネルギーへの転換やグリーン電力の購入を進めるなどの活動を展開していきます。そして、サプライチェーン全体を含めたスコープ3では、目標年度を2050年に設定しました。それに向けてはサプライヤーと連携した施策を展開し、環境負荷の軽減に貢献していきます。

また、ヤチヨでは、水素社会の実現に向けて樹脂製燃料タンクで培った経験と知識を活かし、軽量・長尺の高圧水素容器の開発を進めており、2024年中の国際認証取得を目指しています。水素は使用時に二酸化炭素を発生しないクリーンなエネルギーであるとともに、容器での貯蔵や運搬ができることから、自動車はもちろんそれ以外の幅広い分野でも活用が期待されています。水素を貯めて運ぶために欠かせない容器というアイテムの商品化、そしてさらなる高性能化を図ることで、社会全体における環境負荷の軽減に貢献していきます。

続いて、今回のCSRレポートに掲載はしていませんが、このほかの環境負荷軽減に向けた施策を少し説明します。

一般的な自動車の生産過程では、二酸化炭素の排出量が最も多い工程は塗装工程である、と言われています。これは樹脂部品などの塗装工程を持つヤチヨも同様であり、通常の塗装に比べて二酸化

炭素の排出量を削減できる型内塗装や塗装レス化など、必要な環境対応技術の開発を進めています。

製品開発においては、開発段階でCAE等を活用することで、開発期間の短縮・開発の手戻り削減・スムーズな量産立ち上げと安定生産を目指し、そのプロセスを進化させる施策に取り組んでいます。これにより、開発時の試作削減や生産時の品質向上を実現させ、材料やエネルギーのロスを削減し環境負荷軽減に貢献していきたいと考えています。

今年8月にヤチヨは創立70周年を迎えることができました。世界各国で取り組みが行われているカーボンニュートラルの達成と今まで以上に皆様から存在を期待される企業を目指し、ヤチヨはこれからも絶えずチャレンジを続けていきます。

CSRの基本的な考え方

近年、気候変動や生物多様性の損失、貧困や格差、紛争や人権侵害など、環境、社会問題が多様化する中、企業には「環境」「社会」「経済」の視点から社会的課題の解決に積極的に取り組むことが求められています。

ヤチヨが行う事業では、普段から取り組んでいる環境負荷低減活動、安全活動など、全ての行動がCSR活動と密接につながっています。

これからもヤチヨは企業理念の共有と実践を通じて、企業価値向上に向けた事業を展開することで「社会からその存在を認められ、期待される企業」を目指します。



Environment



環境マネジメント

環境基本方針 / 環境マネジメント体制 / 環境マネジメントシステム / 気候変動への取り組み / マテリアルフロー / 2022年度 環境目標・環境実績 / 2023年度 環境目標 / 省エネルギー / オゾン層保護・地球温暖化への対応 / 汚染防止対策 / 法規制への対応

Social



安全衛生マネジメント

安全衛生方針 / 安全管理体制 / 全社安全衛生委員会 / 安全内部監査の実施 / 安全衛生に関するリスクアセスメント・点検等の実施 / 安全衛生教育の実施 / 健康経営の取り組み / 災害防止に向けて / 無事故・無違反への取り組み / 交通安全啓蒙活動の実施 / 防災活動における取り組み



サプライチェーンマネジメント

調達のかえ方 / 購買理念 / 購買原則 / サステナビリティガイドライン



人材マネジメント

人材育成のコンセプト・戦略



社会貢献

地域社会への貢献

Governance

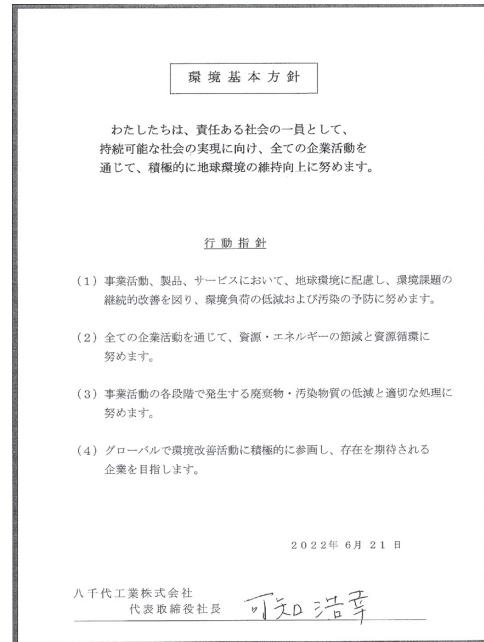


コーポレートガバナンス

基本的な考え方 / 企業倫理改善提案窓口 / リスクマネジメント基本方針 / リスクマネジメント体制 / リスクマネジメント実績 / 株主・投資家コミュニケーション

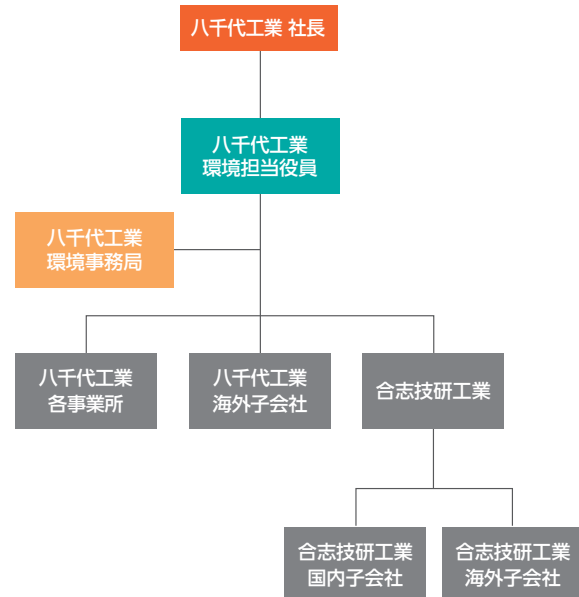
環境基本方針

ヤチヨでは、環境基本方針および行動指針に基づき、環境保護活動を推進しています。



環境マネジメント体制

2050年のカーボンニュートラル達成に向けて、グローバルヤチヨで展開するために、環境担当役員と全ての拠点を直結した体制とすることで連携強化を図っています。



気候変動への取り組み

地球温暖化による気候変動への対応が求められる中、自社領域におけるエネルギー起源のCO₂排出量（スコープ1）のみならず、間接排出量（スコープ2）、その他の間接排出量（スコープ3）を把握することにより、温室効果ガスの低減に取り組んでいます。

●2022年度 温室効果ガス排出量

GHGプロトコル		排出量
スコープ1	エネルギー起源	4,596t-CO ₂
	非エネルギー起源	1t-CO ₂
スコープ2	間接排出	13,141t-CO ₂
スコープ1+スコープ2 合計		17,738t-CO ₂
スコープ3	カテゴリ1の一部	1,137t-CO ₂
	カテゴリ9	1,220t-CO ₂

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

用語の説明

- GHGプロトコル …… 温室効果ガス（Greenhouse Gas）排出量の算定と報告の基準
- スコープ …… 温室効果ガス排出内容の定義
 - スコープ1（直接排出量）＝ 事業者自らによる直接排出、燃料の燃焼、工業プロセスなど
 - スコープ2（エネルギー起源間接排出量）＝ 他社から供給された電気、熱、蒸気の使用
 - スコープ3（その他の間接排出量）
- カテゴリ …… スコープ3を15項目+その他（任意）に分けたもの

マテリアルフロー

事業活動（研究開発、営業、購買、製造、管理）全般における資源・エネルギーの投入量（Input）と排出量（Output）を把握し、事業活動に役立てています。

●投入量（Input）

区分	項目	使用量
エネルギー	電力（買電）	31,206MWh
	軽油	0.1kL
	LPガス	6.5t
	都市ガス	2,037千m ³
水資源	地下水	12,572m ³
	工業用水	19,610m ³
	上水	43,897m ³
化学物質	取扱量	334t
原材料	鋼材	2,472t
	樹脂材	6,519t



事業活動

●排出量（Output）

区分	項目	使用量
排出	CO ₂	17,738t-CO ₂
	NOx	2.44t
	SOx	0.001t
	排水	45,261m ³
化学物質	VOC	523t
	PRTR対象物質	198t
廃棄物 原材料	産業廃棄物	556t
	社外リサイクル	27t
	有価物	4,336t

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

用語の説明

- NOx…窒素酸化物
- SOx…硫黄酸化物
- VOC…Volatile Organic Compounds＝揮発性有機化合物
- PRTR…Pollutant Release and Transfer Register＝化学物質排出移動量届出制度

環境マネジメントシステム

国内事業所2地区、国内子会社1社、海外子会社14社で、ISO14001認証取得しています。

●ISO14001 認証取得状況

国 / 地域	拠点名
日 本	八千代工業株式会社 柏原地区（本社・柏原工場・埼玉研究所）
	八千代工業株式会社 鈴鹿地区（鈴鹿工場・亀山事業所）
	合志技研工業株式会社
米 州	ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド（米国）
	エー ワイ マニュファクチャリング リミテッド（米国）
	ヤチヨ マニュファクチャリング オブ アメリカ エル エル シー（米国）
	ヤチヨ メキシコ マニュファクチャリング エス エー デ シー ブイ（メキシコ）
中 国	ヤチヨ ド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ペサス リミターダ（ブラジル）
	八千代工業（中山）有限公司
ア ジ ア	八千代工業（武漢）有限公司
	サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド（タイ）
	サイアム ゴウシ マニュファクチャリング カンパニー リミテッド（タイ）
	ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア（インドネシア）
	ヤチヨ インディア マニュファクチャリング プライベート リミテッド（インド）
	ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド（インド）
	ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド（ベトナム）
ア ジ ア	ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド（フィリピン）

2022年度 環境目標／環境実績

ヤチヨは、責任ある社会の一員として、全社方針に準拠した環境保護活動を進めています。とりわけ気候変動（地球温暖化）、エネルギーリスクを重要課題と認識し、環境負荷の低減に向けて取り組んできました。

達成度判定 ○=95%以上 △=80%以上 ×=80%未満			
区 分	目 標	実績値	達成度
エネルギー起源CO ₂ 総排出量	2019年度比 3%減	4.6%減	○
CO ₂ 排出量 原単位 (付加価値額原単位)	2019年度比 3%減	11.1%減	○
水資源使用料 原単位 (付加価値額原単位)	2019年度比 3%減	24.4%減	○
廃棄物量 原単位 (付加価値額原単位)	2019年度比 3%減	12.4%減	○
VOC排出量 原単位 (塗装面積当たり原単位)	2019年度比 3%減	13.8%増	×
CO ₂ 排出量 低減施策効果 (2019年度比1%削減)	161t-CO ₂	546t-CO₂	○

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所
電力係数は、環境省・経済産業省が公表した電気事業者別排出係数を使用しています。

2023年度 環境目標

2050年のカーボンニュートラル達成に向けて、2023年度から2025年度の中期3カ年における環境目標を設定しています。

ヤチヨとしてグローバルレベルで活動を推進すべく、CO₂排出量削減の施策、水資源使用量削減の施策、廃棄物排出量削減の施策で、それぞれ削減量と総量の目標管理を実施しています。

なお、2023年度の目標は下記の通りとなります。

環境負荷低減 管理項目	目 標
CO ₂ 排出削減量	483t-CO ₂
CO ₂ 排出総量	15,181t-CO ₂
CO ₂ 排出量 原単位 (付加価値額原単位)	1.86t-CO ₂ /百万円
水資源削減量	787m ³
水資源総使用量	75,454m ³
水資源使用量 原単位 (付加価値額原単位)	9.08m ³ /百万円
廃棄物削減量 (有償＋有価)	52t
廃棄物総排出量 (有償＋有価)	5,020t
廃棄物量 (有償＋有価) 原単位 (付加価値額原単位)	0.603t/百万円
VOC排出量 原単位 (塗装面積当たり原単位)	633.4g/m ²

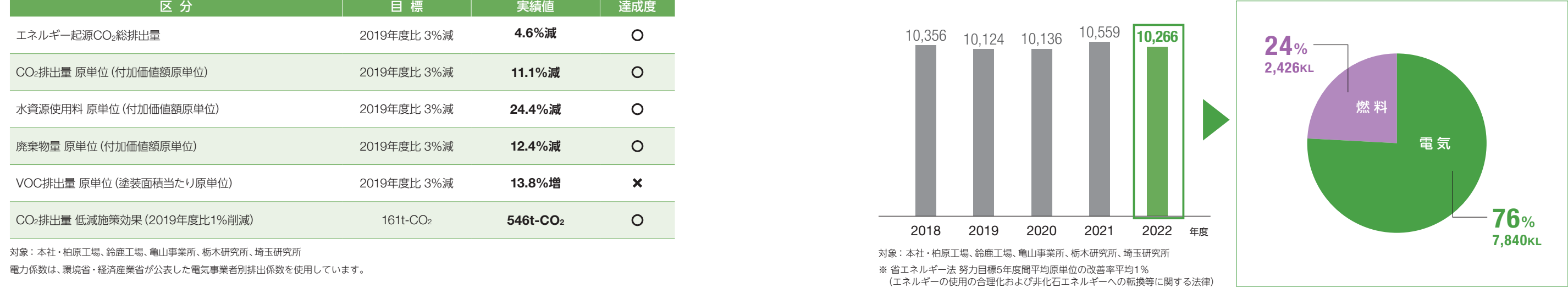
対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

省エネルギー

2022年度のエネルギー使用量は、原油換算値で10,266KL（前年度比97.2％）となりました。原単位は、対前年度比98.9％、5年度間平均原単位変化において103.1％*となりました。

引き続き、省エネルギー法の努力目標（原単位改善率平均1％達成）に向け、省エネルギー活動を強化していきます。

●原油換算推移 (KL)



対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所
※ 省エネルギー法 努力目標5年度間平均原単位の改善率平均1％
（エネルギーの使用の合理化および非化石エネルギーへの転換等に関する法律）

オゾン層保護・地球温暖化への対応

■ 第1種特定製品

ヤチヨでは、フロン排出抑制法に対応し全事業所で第1種特定製品の機器のリスト化、点検表の整備を行っています。2022年度の算定漏えい量について、下表の通り報告義務はありませんでした。

冷媒ガス	漏えい量	GWP (地球温暖化係数) t-CO ₂ /t	CO ₂ 換算
R407C	2.67g	1,770	4.72t-CO ₂
R410A	0.9kg	2,090	1.88t-CO ₂
R448A	6.0kg	1,273	7.64t-CO ₂
算定漏えい量			14.24t-CO ₂

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所
事業者は、第1種特定製品の簡易点検（1回／四半期）、一定規模以上の機器においては、有資格者による定期点検（1回／年または1回／3年）が義務化され、整備に伴う冷媒ガスの漏えい量（充填量と回収量の差）が、1,000t-CO₂ (GWPによるCO₂換算) 以上の場合、事業所管大臣への報告が必要となります。

汚染防止対策

柏原工場、鈴鹿工場では、土壌および地下水の調査を行った結果、環境基準値を超えるテトラクロロエチレンが検出されたため、2004年から地下水揚水バリア井戸を設置し、浄化を継続して行っています。
浄化状況については定期的に測定を行い、結果を市に報告しています。

法規制への対応

■環境関連の法規制順守状況

2022年度、環境関連の法令違反はありませんでした。

■環境関連の法の執行状況

省エネルギー法における事業者のクラス分け評価は、2022年度Aクラス評価となります。
なお、2023年度より鈴鹿工場が、第二種エネルギー管理指定工場等から第一種エネルギー管理指定工場等に区分が変更となります。

■環境に関する苦情・トラブル

2022年度、各拠点に対する苦情やトラブルはありませんでした。
行政を含め地域などから苦情・トラブルの連絡を受けた場合は、速やかに全社環境委員会で情報共有を行い、再発防止を図っていきます。

TOPICS

FC EXPO 2023へ出展

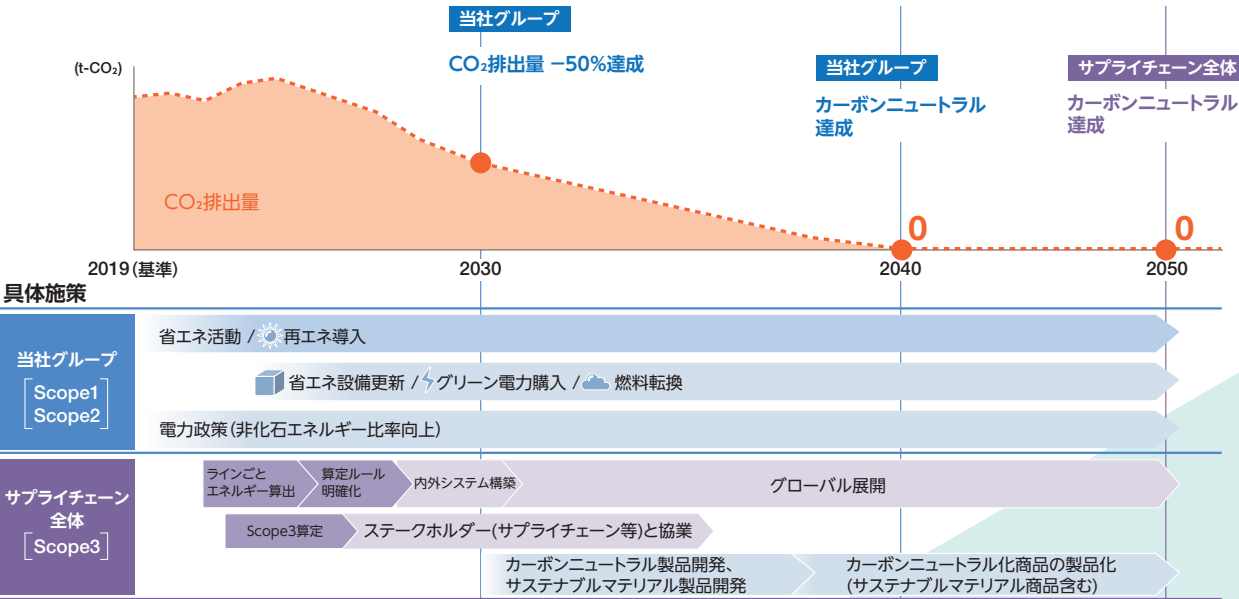
ヤチヨでは、燃料タンクで培った技術やノウハウを生かし、2013年から水素タンクの研究開発を開始しています。
2023年3月15日～17日に東京ビッグサイトで開催されたFC EXPOでは、乗用車以外の分野や領域で広く活用が見込まれる長尺水素タンクとともに、水素社会の実現に向けたヤチヨの技術と取り組みを提案しました。
2024年中の国際認証取得・上市、そして将来的には量産車種への適用を目指し、FCV用水素タンクの技術を高めてまいります。



カーボンニュートラルへの取り組み

ヤチヨは、2050年のカーボンニュートラル達成に向けて、全社一丸となって環境課題へ積極的に取り組むとともに、その目標を策定しました。
具体的には、2030年までにCO₂排出量を基準とする2019年度と比較して50%削減、2040年までにヤチヨグループ内におけるカーボンニュートラル達成を目指し、省エネルギー活動の継続に加え、再生可能エネルギーへの転換、グリーン電力の購入、さらには燃料転換を進めていきます。
また、サプライチェーンを含めたカーボンニュートラルの達成は、2050年を目指しています。

●CO₂排出量削減目標およびロードマップ



安全衛生方針

ヤチヨは、全社安全衛生方針に基づき、安全衛生活動を推進しています。

全社安全衛生方針

理念

ヤチヨは、ヤチヨで働く一人ひとりが安心して働ける労働環境を維持するために、職場環境のリスクを適切に管理し、安全で衛生的な職場造りを行う。

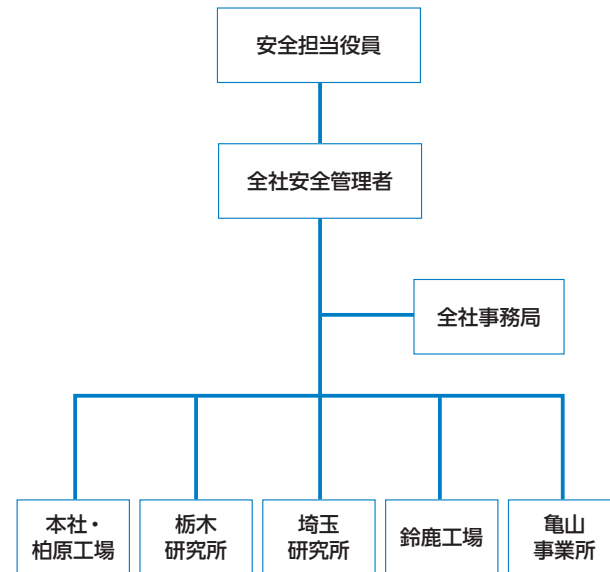
方針

- 安全衛生関係諸法令、および社内規定を順守するとともに、必要な自主基準を設け管理レベルの向上を図る。
- 職場の整理・整頓・清掃・清潔・躰を徹底し、安全で衛生的な職場の維持向上に努める。
- 喫煙に関するルールやエチケットを守り、受動喫煙防止を徹底する。
- 職場の危険・有害要因の明確化とリスクアセスメントを実施し、「危険ゼロ」の安全で快適な職場づくりを推進する。
- 職場の異常や、不具合を発見した場合は適切な処置をするとともに、直ちに上司に報告する。
- 緊急時の対応手順や連絡先を常に把握し、災害発生時は、人命の安全を優先し被害の拡大防止に努める。
- 全従業員の安全教育とコミュニケーションを図り、全員参加の安全衛生活動を実行する。
- 過重労働およびメンタルヘルスによる健康障害を防止するため、衛生管理体制の充実を図り、従業員の健康確保対策を推進する。
- 健康経営を積極的に進め、従業員の生活習慣病の未然防止を図り、健康増進に努める。
- 本方針の実行に当たっては適切な資源を投入し、効果的な改善を継続的に実施する。

安全管理体制

全社安全衛生委員会では、安全担当役員をトップとし安全目標実施項目を年度ごとに策定し推進しています。

●全社安全衛生管理組織・体制



全社安全衛生委員会

ヤチヨでは、働く一人ひとりが安心して働ける労働環境を維持するために、職場環境のリスクを適切に管理し、安全で衛生的な職場づくりを行っています。全社安全衛生委員会をそれぞれの拠点で開催することにより、拠点内の安全巡視と安全活動の確認を行うことで労働災害防止につなげる活動を行っています。

また、各事業所では、毎月安全衛生委員会、交通安全委員会、防災委員会をそれぞれ開催し、労使一体で安全衛生活動の改善に取り組んでいます。

安全巡視

柏原工場	6月
栃木研究所	8月
鈴鹿工場	1月
埼玉研究所	3月

安全内部監査の実施

法的な要求事項や社内規準の順守状況を確認するために、重点項目を定め国内全事業所を対象に安全内部監査を実施しています。監査実施後には安全担当役員に報告し、スパイラルアップに努めています。

安全衛生に関するリスクアセスメント・点検等の実施

- 事業所内における作業環境や設備リスクアセスメントを実施しました。リスクレベルの高い項目についてはリスク低減を実施しました。
- 特定化学物質や有機溶剤を取り扱う事業所では、化学物質のリスクアセスメントを実施しました。従業員に正しい知識を取得してもらうとともに災害予防に努めています。

安全衛生教育の実施

- 危険予知トレーニング、リスクアセスメント教育を実施することにより、従業員の危険に対する感性を磨き、より安全な職場環境へとつなげています。
 - 新入社員や新たに管理監督者に任命された従業員に対して安全衛生に関する教育、管理職を対象としたラインケア研修、従業員を対象としたセルフケア研修を実施しました。
- | | | |
|-----------------------|-----|-------|
| 新入社員教育 | 4月 | 9月 |
| 新任管理監督者教育(指導員、主任、管理職) | 5月 | 7月 |
| メンタルヘルス教育(セルフケア教育) | 12月 | 2月 3月 |
| (ラインケア教育) | 8月 | 3月 |

健康経営の取り組み

全従業員を対象としたメンタルタフネスチェックを年に1度実施しています。高ストレス者などに対しては、産業医や外部機関と連携した相談や面談を行うなど、働きやすい職場環境の実現に向けて取り組んでいます。

災害防止に向けて

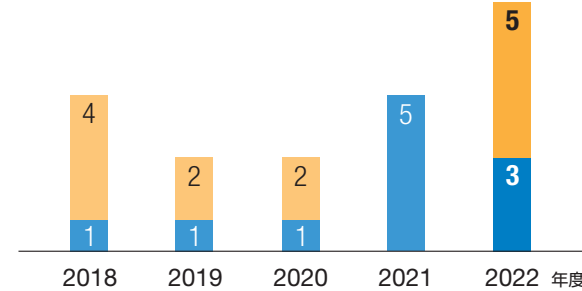
■国内外の災害発生状況

業務安全では、危険予知トレーニング、リスクアセスメントを実施しましたが、災害の半数は転倒災害となりました。発生した事象については、対策の実施と水平展開を行い再発防止に努めていきます。

交通安全ではさまざまな取り組みを行ってきましたが、2022年度では業務および通勤途上以外の交通事故が多く発生しました。2023年度も引き続き全社で交通安全に関する取り組みを行います。

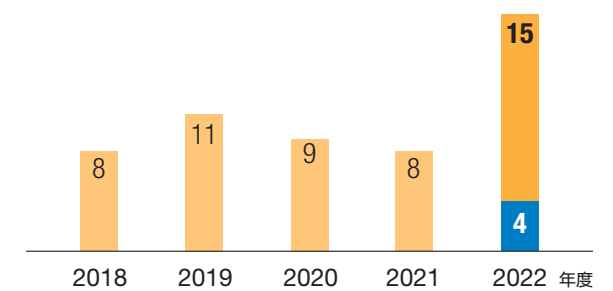
●業務災害件数

■休業災害 ■不休業災害



●交通災害件数

■休業災害 ■不休業災害



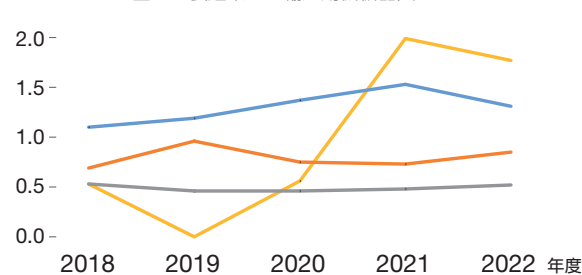
■国内事業所における度数率、強度率比較

2022年度における休業災害件数は8件発生しました。

度数率で1.77、強度率で0.003となりました。災害の原因の深掘りを行い、再発防止と他事業所への水平展開を実施していきます。また、災害“ゼロ”を実現するため、職場のリスクアセスメントの強化および従業員に対して危険予知トレーニング教育を継続していきます。

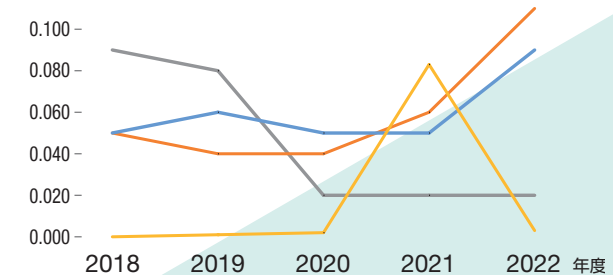
●度数率

— 全国 — 製造業 — 輸送用機械器具 — ヤチヨ



●強度率

— 全国 — 製造業 — 輸送用機械器具 — ヤチヨ



※ 製造業、輸送用機械器具製造業500人～999人

無事故・無違反の取り組み

安全運転管理者等による集合型の交通安全教育やWebを利用した交通安全教育を実施しました。また、各地域の交通安全協会等が主催する無事故・無違反コンクールに参加しました。 **110チーム(400名)参加**

交通安全啓蒙活動の実施

警察合同交通安全啓蒙の実施

運転中における全席シートベルトの着用について呼びかけを実施しました。



防災活動の取り組み

総合防災訓練の実施

有事を想定した総合防災訓練を事業所ごとに実施し、それぞれに与えられた役割の再確認を行いました。

訓練内容

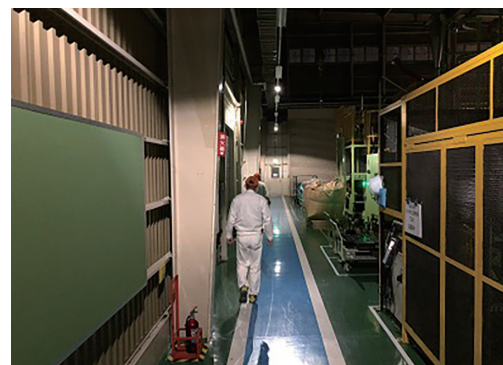
- 通報訓練 (消防署への通報訓練)
 - 避難訓練 (従業員の避難訓練)
 - 消火器取り扱い訓練 (水消火器による消火器の取り扱い訓練)
- 栃木地区… 9月
埼玉地区… 9月
三重地区… 11月



夜間防災訓練の実施

火災により電気の供給が停止したことを想定した非常灯のみでの避難および通報までの手順確認を含めた夜間の訓練を実施しました。

柏原地区… 7月



調達の方針

ヤチヨは、技術・製品の競争力、事業、人材でトップランナーとなり、社会からその存在を認められ、期待される企業を目指しています。購買部門では競争力が強く魅力ある部品・材料の調達を進めますが、取引先にあたり「購買理念」、「購買原則」を定め、お取引先との信頼関係を常に強化しています。

購買理念

良いものをタイミング良く適正な価格で、永続的に進化を続ける、競争力ある調達を行う。

購買原則

- 1. 取引先の尊重と相互信頼** お取引先の主体性を尊重し、対等な立場で取引を行います。
- 2. 自由でチャレンジする調達** 魅力ある製品を供給するお取引先と積極的に取引を行います。
- 3. オープンで健全な調達** 「ヤチヨ購買行動規範」を定め、オープンで健全な取引を行います。
- 4. 環境展開と法令遵守** サステナビリティに対し積極的に対応していきます。
(環境対応、紛争鉱物への対応、法令遵守、BCP、反社会的勢力、安全・品質)

サステナビリティガイドライン

ヤチヨでは、サステナビリティに対する考え方を取引先と共有し、積極的に対応するため「Yachiyo取引先サステナビリティガイドライン」を発行しています。このガイドラインを通じて、安全・品質、人権労働、環境、コンプライアンス、情報開示など問題事象の未然防止に努めています。

2022年度実績

1. Yachiyo製品化学物質管理基準書の改訂版発行 2022年4月、11月発行

ヤチヨでは法規遵守と地球環境や生態系に与える影響の軽減を図ることを目的に、法規で使用制限がある化学物質と使用量の届出義務がある化学物質、業界で用量を監視する化学物質を明確にし、取引先と共有しています。

2. 温室効果ガスの排出量調査を実施 2022年4月～5月

地球温暖化による気候変動への対応が求められており、前年度比1%を目標に調査を実施しました。

3. コンフリクト・ミネラル(紛争鉱物)の調査実施 2022年8月～9月

調査内容:3TG(タンタル、錫、金、タングステン)の含有の有無と供給元の製錬業者の特定調査を実施しました。

4. お取引先懇談会の開催と取引先の表彰の実施 2023年3月実施

4年ぶりに対面形式で開催した懇談会では、取引先42社が出席し、ヤチヨの購買活動に貢献いただいた取引先を表彰しました。
開発部門賞1社、品質部門賞2社、原価部門賞3社

5. 従業員研修、教育(法令遵守)

法令遵守のための下請法研修、購買ルール周知活動の実施





人的資本・多様性

ヤチヨは、Vision2030「ものづくりの弛まぬ進化でモビリティのキーカンパニーになる」を掲げています。この実現に向けて、企業理念を基軸とした「心をこめたものづくりで世界中の人たちを笑顔にする」を使命とし、全社一丸となって歩んでいます。また、外部環境や事業構造変化に適応し、継続して新価値を創出する組織を実現していきます。

1. 人材育成のコンセプト

5つの行動指針に基づいた人材育成に取り組んでいます。

- 常に夢をもち若さを保つこと。
- 感性を磨き技を鍛えること。
- 安全で明るく調和のとれた環境を作ること。
- 時間と独創性を重んじること。
- 自らの目標に向かって粘り強く努力すること。

「夢や希望を抱いてその実現のために思考し創造する存在」である従業員の成長と絶え間ない努力が組織を向上させ、ヤチヨを成長させ続けることにつながると考えています。

2. 取り組み

① 風土改革

従業員にとってより生き生きと働きがいのある職場・組織・会社をつくり上げていくことを目的として、次の取り組みを進めています。

会社に対する満足度向上を目的に定点観測と改善項目の抽出を行っています。ここから抽出した課題の解決に向けて、従業員への意識調査を毎年実施しています。意識調査の結果から明らかになった課題への対応として、経営トップが直接従業員と対話するラウンドテーブルミーティングの実施や、リーダーシップをさらに発揮することを目的にしたマネジメント層の育成強化などに取り組んでいます。

また、メンタルタフネスチェックの実施により、従業員の心の健康状態を捉え、従業員自身にもセルフケアを促すことで、心の健康管理の向上に取り組んでいます。

ヤチヨで働く意義や魅力ある会社をつくることを目的とした企業風土改革に取り組んでおり「一致団結への変革」、「自ら挑戦し進化する集団への変革」の二つのステートメントを軸に意識改革と実践行動を進めています。

② ワークライフバランスの重視

従業員一人ひとりが生き生きと働きその能力を発揮するためには、ワークライフバランスが重要です。ヤチヨでは「働きやすい職場」を目指すだけでなく、仕事と生活の両立に向けた各種制度の充実を図っています。中でも、労使が連携して適切な労働時間管理や前年度から繰り越した年次有給休暇の100%取得を推進しています。

③ 多様性の尊重

ヤチヨは、個人の持つさまざまな価値観や個性の違いを尊重し、育み、多様な人材が持てる力を十分に発揮できる職場の形成に努めています。

仕事と子育てが両立でき女性の活躍を推進する職場づくり

次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、かつ、育成される環境を整備することを目的として施行された「女性活躍推進法」、「次世代育成支援対策推進法」に基づく行動計画の策定、従業員への周知、外部公表および都道府県労働局への届け出を実施しています。

また、「育児・介護休業法」の改正に合わせ、男性従業員も仕事と子育ての両立がしやすくなるよう、育児休職に関する制度の見直しと広く従業員への周知を行い、希望者が安心して制度を活用できるよう取り組んでいます。

国籍や障がいの有無にかかわらず誰もが働きやすい職場づくり

ヤチヨは持続的な発展を目指し、基本理念である「人間尊重」に基づき、一人ひとりの違いを個性として認め尊重し合い、多様な人材が持てる力を存分に発揮して、企業としての総合力を高めています。そのため国籍を問わない積極的な人材採用や、障がい者職業生活相談員の配置や支援センターと連携したフォローアップなどを行うとともに、フレックスタイム制や短時間勤務を適用するなど、本人に合わせた柔軟な働き方ができる環境を整えています。

多様な働き方実践企業認定制度

2013年12月11日付けで埼玉県の「多様な働き方実践企業認定制度」に「ゴールド」区分で認定され、2018年10月1日には「ゴールド+」の認定を受けました。引き続き、多様な働き方を実践することで、生き生きと働き続けられる環境づくりを推進していきます。

●指標および目標

区 分	項 目	管理指標	2022年度実績	2023年度目標
組織風土改革	従業員満足度の向上	意識調査スコア総合満足度	61%	69%
ワークライフバランス	年間所定外時間の削減	1人当たり年間所定外時間	193.1時間/人	180.0時間以下/人
	有給休暇取得の推進	繰越分取得率	100%	100%
ダイバーシティ	女性従業員の採用	採用率	10%	10%以上
	障がい者雇用の促進	雇用率	2.32%	2.50%

地域社会への貢献

ヤチヨは、社会からその存在が喜ばれ、さらなる成長を期待される企業を目指して「地域に根ざした活動」「未来を創る子どもの育成支援活動」「地球環境を守る活動」に取り組んでいます。

日本

■フードドライブ活動（本社、柏原工場）

近日中に食べる予定のない食材の寄贈を従業員に呼びかけ、集まった食材はフードバンクさま様を介して地域の子供達や生活困窮者に提供しています。

- この活動を通してSDGsを従業員に身近に感じてもらうことができました。



■陸上教室

地域の陸上競技協会と共同で地元小学生にランニング指導を行いました。（参加：200名程）

これは2012年から毎年実施している活動として、地元の方々と陸上教室を通してコミュニケーションを図り、地域社会に貢献していきます。



■チャリティーイベント（栃木研究所）

初夏まつりチャリティーイベントを開催しました。東日本大震災をきっかけに、このイベントを企画し、毎年実施しています。

2022年度は、売上金の全てをさくら市社会福祉協議会へ寄付しました。



■特別支援学校の現場実習受入れ（鈴鹿工場 亀山事業所）

地元特別支援学校の高等学部に在籍する生徒を受け入れ、現場実習を実施しました。現場実習を通じ生徒の職業適性の発見や適応性を養うことに貢献できたほか、働くことの大切さを伝えられました。（期間：2022年12月5日から5日間／実習内容：現場スタッフ）

米 州

■フードドライブ活動への参加（エー ワイ マニュファクチャリング リミテッド）

例年サンクスギビングデイの前にフードドライブ活動を行っております。フードドライブとは、自宅にある缶詰や乾物などを持ち寄り、地域のフードバンクに寄付することです。

2022年は、例年になく大口の寄付が集まりました。本年は新型コロナウイルス感染症や半導体の供給不足など数多くの困難に直面しましたが、そのような状況下にあっても、アソシエイトの地域社会を思う気持ちが変わらないことを実感する機会となりました。



アジア

■被災地への物資援助（ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア）

2022年11月21日、インドネシアの西ジャワ州チアンジュール県で非常に大きな地震が発生し、特にチアンジュール郊外で多くの被害がでました。

ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシアでは、食べ物や衣服などの救援物資を現地で救済活動を行っている団体に寄贈しました。



基本的な考え方

ヤチヨは「人間尊重」「顧客第一」という基本理念に立脚し、株主や投資家の皆様をはじめ、お客様、社会からの信頼をより高め「社会からその存在を認められ、期待される企業」となるため、コーポレートガバナンスの充実を経営の重要課題の一つと認識し、その取り組みを行っております。

組織運営においては、世界各地のお客様の要請に応える事業運営を、迅速かつ適切に展開しながら、効果・効率の高い体制を構築しております。

また、内部監査部門である業務監査室が各組織の業務活動全般の適法性、遂行状況について、効果的な監査を実施しているほか、各組織が自律性を高めながら、コンプライアンスやリスク管理に取り組んでおります。

経営の監視を客観的に行うため、社外取締役および社外監査役をおき、取締役会、監査役会において監督、監査を行っています。また、当社は、経営の監督機能と執行機能の分離、取締役会の機動性向上および経営の意思決定の迅速化を狙いとし執行役員制度を採用しております。

取締役については、経営環境の変化に対する機動性を高めるために、任期を1年としております。

株主や投資家の皆様に対して、決算や経営政策の迅速かつ正確な公表や開示を基本とし、企業の透明性を今後も高めてまいります。

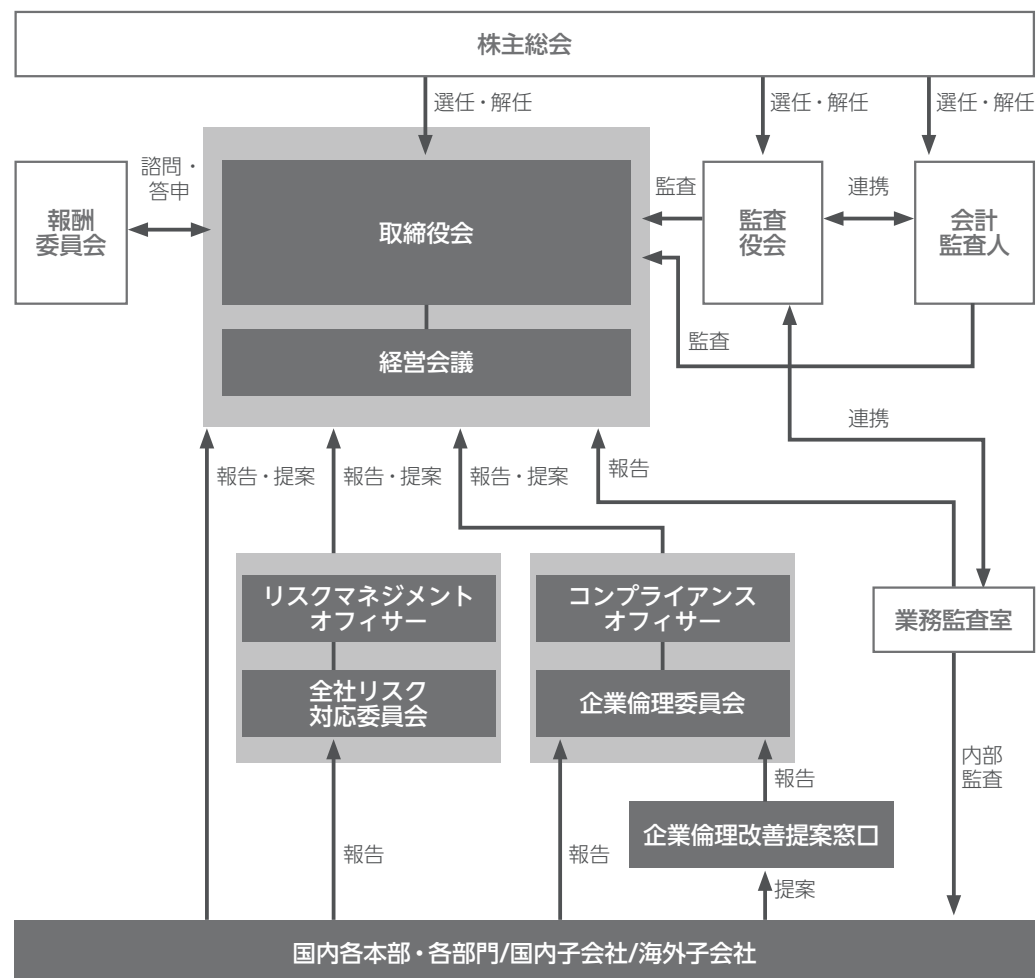
 コーポレートガバナンスに関する報告はこちらからアクセスしてください。



八千代工業 コーポレートガバナンス



●コーポレートガバナンス体制の概要



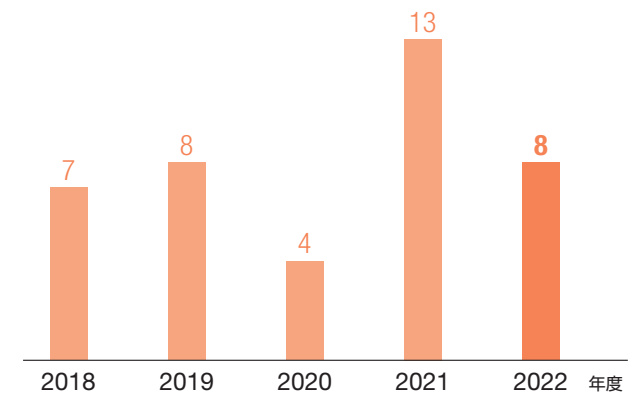
 企業倫理改善提案窓口

ヤチヨは、企業倫理に関する問題の改善を図る仕組みとして「企業倫理改善提案窓口」を設置しています。

本窓口に寄せられた提案については、提案者が不利益を被ることのないようプライバシーの保護を図るとともに、公平・中立な立場で客観的に調査を実施し、適切な措置・対策を講じています。提案は、eメール、電話、手紙、FAXが活用でき、匿名での提案も受け付けています。また、女性が提案を受け付ける「セクハラ提案窓口」の設置や、外部窓口を設置することにより、提案しやすい環境の整備を図っています。

2022年度、「企業倫理改善提案窓口」（セクハラ提案窓口、外部窓口含む）への提案は8件ありましたが、全て対応は完了しています。

●企業倫理改善提案窓口提案件数の推移



リスクマネジメント

基本方針

- 企業を取り巻くリスクを認識し、その発生可能性の低下と発生時の影響低減を図ることで、ヤチヨで働く全てのひと々と地域住民の安全と健康を守り、企業活動の発展を確保します。
- 重大な危機が発生した場合は、迅速な対応を行い、人命の安全を確保するとともに、被害を最小限に食い止め、早期復旧を図り、お客様への製品・サービスの安定供給責任を果たします。

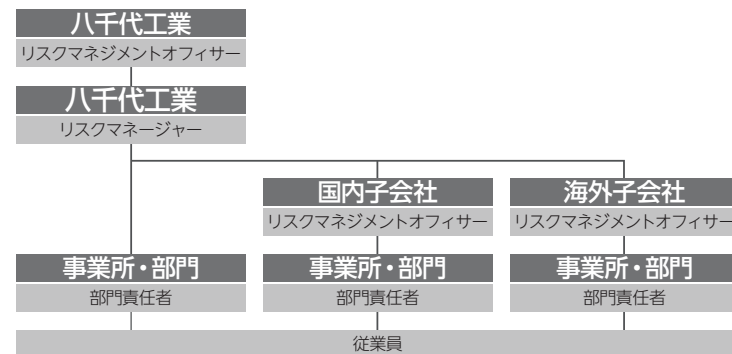
行動指針

- 全ての行動において、人命の安全を最優先とする。
- ヤチヨで働く全ての人が、平常時よりリスクマネジメントの意識をもって行動する。
- 業務遂行におけるリスクを認識するとともに未然の防止策を策定する。
- 自らの安全確保ののち、まずは家族の安否を確認した上で業務に復帰する。
- 危機対応の方針、体制、責任を明確にし、業務の迅速な復旧を図る。
- 危機対応、復旧活動などの対策は、継続的な改善を図る。
- 社会や経営に重大な影響を与えるリスクに関し、適宜情報の開示を行う。

リスクマネジメント体制

グローバルヤチヨとして、リスクマネジメントへの取り組みをさらに迅速なものとするため、リスクマネジメントオフィサーおよび事務局との連携強化を目的とし、全ての事業所と直結の体制としました。

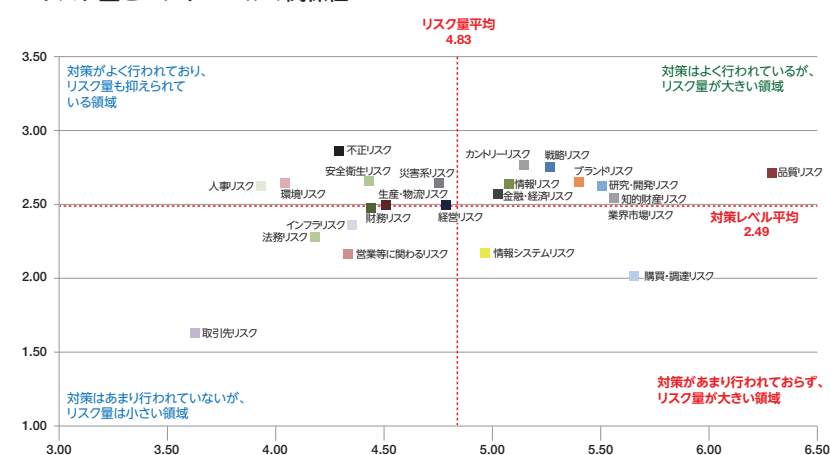
各事業所に統括責任者と推進責任者を配置し、海外事業所においては現地法人社長を統括責任者としています。



リスクマネジメント実績

2022年度はリスクアセスメント結果からマッピングによるリスクの見える化を図り優先度の高いリスクを明確にしました。優先されるリスクについては、課題解決を目指し推進しました。

● リスク量とコントロールの関係性



ヤチヨグループ（国内・海外子会社含む）で、各々重点リスクを抽出しPDCA展開を行うことで、リスク度の低下を図る活動をしてきました。

株主・投資家コミュニケーション

適時・適切な情報の開示

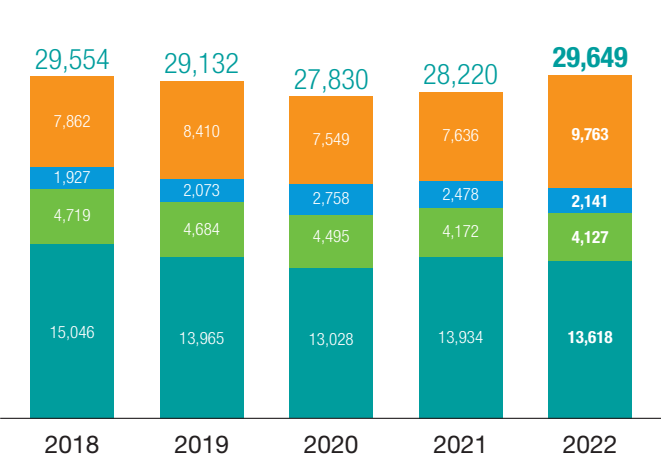
透明性の高い企業であり続けるために、株主・投資家の皆様に適切な情報開示の促進を図り、積極的なコミュニケーションを取ることが重要であると捉えています。



環境データ

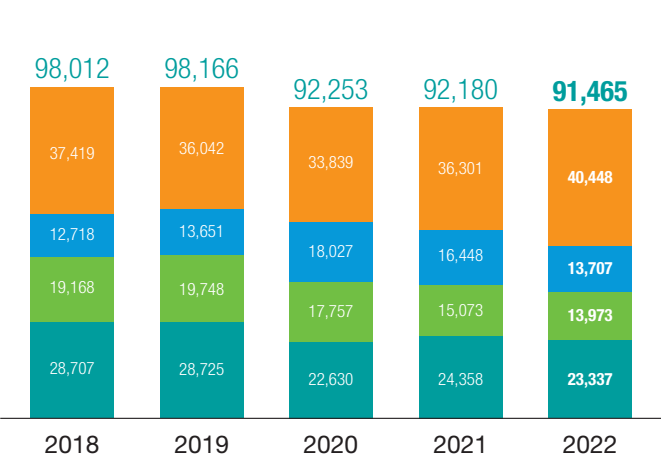
●エネルギー投入量 (KL)

日本 米州 中国 アジア



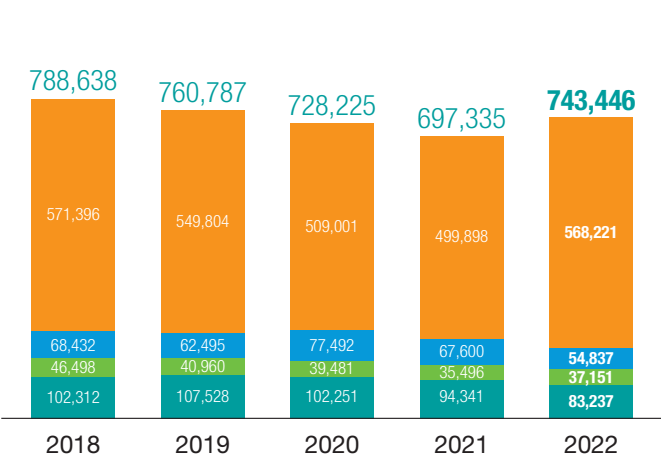
●CO₂排出量 (t-CO₂)

日本 米州 中国 アジア



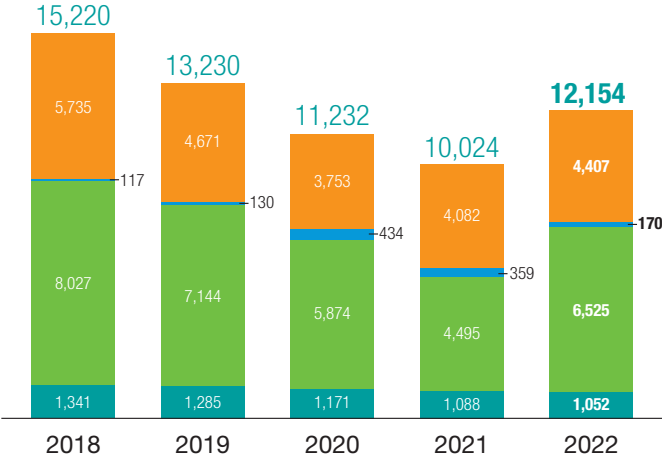
●水資源使用量 (m³)

日本 米州 中国 アジア



●廃棄物量 (t)

日本 米州 中国 アジア



地域	対象事業所（従業員数）	エネルギー資源											廃棄物
		電気 (MWh)	太陽光発電 (MWh)	プロパンガス (kg)	都市ガス (千m ³)	天然ガス (千m ³)	灯油 (KL)	ガソリン (KL)	軽油 (KL)	重油 (KL)	E20エタノール / ガソリン (KL)	水 (m ³)	処分量 (t)
日本	本社および柏原工場 (377名)	8,828	0	4,791	427	0	0	0	0	0	0	21,015	180
	鈴鹿工場 (83名)	7,450	0	0	1,188	0	0	0	0	0	0	21,470	152
	亀山事業所 (132名)	10,192	0	0	423	0	0	0	0	0	0	14,689	145
	栃木研究所 (92名)	3,525	0	1,681	0	0	0	0	0	0	0	3,241	63
	埼玉研究所 (75名)	1,211	0	45	0	0	0	0	0	0	0	2,887	24
	合志技研工業株式会社 (359名)	6,282	9	179,276	291	0	321	9	2	4	0	15,948	455
	株式会社ウエムラテック (125名)	2,616	0	16,648	0	0	0	6	1	0	0	3,987	33
米州	ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド (40名)	904	0	0	22	0	0	0	0	0	0	982	21
	ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド (234名)	17,962	0	29,481	0	114	0	0	0	0	0	7,682	4,566
	エー ワイ マニュファクチュアリング リミテッド (240名)	3,432	0	0	0	801	0	0	2	0	0	13,805	382
	ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アメリカ エル エル シー (223名)	9,479	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4,544	1,057
	ヤチヨ メキシコ マニュファクチュアリング エス エー デシー ブイ (142名)	2,071	0	3,198	0	0	0	0	0	0	0	8,390	316
	ヤチヨ ド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ベサス リミターダ (46名)	1,348	0	1,220	0	0	0	0	0	0	0	1,748	183
中国	八千代工業 (中山) 有限公司 (440名)	10,826	370	0	0	21	0	8	1,058	0	0	28,581	36
	八千代工業 (武漢) 有限公司 (580名)	11,350	118	0	0	10	0	0	0	0	0	26,256	134
アジア	サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド (392名)	11,686	0	208,136	0	0	0	0	0	0	0	115,791	264
	ヤチヨ インディア マニュファクチュアリング プライベート リミテッド (62名)	3,191	819	0	0	0	0	24	60	0	0	6,902	0
	ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア (37名)	1,940	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,236	5
	サイアム ゴウシ マニュファクチュアリング カンパニー リミテッド (756名)	17,928	253	14,238	0	994	21	0	6	0	31	209,328	1,078
	ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド (234名)	4,079	56	0	0	955	0	0	45	0	0	3,350	675
	ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド (1,389名)	21,538	0	450,985	0	0	0	34	37	0	0	167,987	1,550
	ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド (346名)	3,518	0	108,881	0	0	0	11	13	0	0	62,627	837

連結財務関連データ

百万円（1株当たり情報および財務指標を除く）

	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期
売上収益（継続事業）	161,160	154,629	157,231	164,230	188,243
税引前利益（継続事業）	928	807	6,110	11,907	12,326
当期利益または当期損失（△） （全事業）	△1,697	△1,838	226	6,406	7,532
親会社の所有者に帰属する当期利益または当期損失（△） （全事業）	△4,335	△3,169	666	5,154	5,971
当期包括利益（全事業）	△2,521	△4,810	5,583	12,250	10,048
親会社の所有者に帰属する持分	53,157	47,386	52,663	62,583	69,759
資産合計	118,832	117,219	126,448	143,279	142,297
1株当たり親会社所有者帰属持分（円）	2,213.64	1,973.31	2,199.82	2,614.22	2,912.29
基本的1株当たり当期利益 または基本的1株当たり当期損失（△）（円）	△180.51	△131.97	27.77	215.28	249.31
希薄化後1株当たり当期利益（円）	—	—	—	—	—
親会社所有者帰属持分比率（％）	44.7	40.4	41.6	43.7	49.0
親会社所有者帰属持分利益率（％）	△7.7	△6.3	1.3	8.9	9.0
株価収益率（倍）	—	—	23.0	3.3	4.5
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,581	12,844	8,889	12,839	11,707
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,962	△11,465	△7,337	△5,334	△ 7,116
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,197	4,601	△6,589	144	△ 10,980
現金および現金同等物の期末残高	20,470	25,121	21,738	32,253	26,679

1. 国際会計基準（以下「IFRS」という。）に基づいて連結財務諸表を作成しております。
2. 百万円未満を四捨五入して記載しております。
3. 希薄化後1株当たり当期利益については、希薄化効果を有する株式が存在しないため記載しておりません。
4. 2019年3月期および2020年3月期の株価収益率については、当期損失であるため記載しておりません。

非財務関連データ（単独）

	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期
従業員数	875人	867人	838人	820人	759人
女性従業員割合	5.4%	5.0%	5.7%	5.7%	5.8%
管理職に占める女性比率	0.58%	0.60%	0.65%	0.00%	0.00%
障がい者雇用人数	17人	19人	20人	17人	16人
障がい者雇用率	2.30%	2.73%	2.64%	2.34%	2.34%
取締役人数	6人	7人	5人	5人	5人
(内 社外取締役)	1人	1人	2人	2人	2人
監査役人数	4人	4人	4人	3人	3人
(内 社外監査役)	3人	3人	3人	2人	2人
役員報酬総額	179百万円	203百万円	143百万円	123百万円	137百万円
新卒採用人数	13人	19人	16人	21人	6人
中途採用人数	24人	10人	9人	0人	2人
中途採用比率	64.9%	34.5%	36.0%	0.0%	25.0%
女性採用人数	6人	1人	6人	2人	1人
(内 新卒採用人数)	2人	1人	1人	2人	1人
(内 中途採用人数)	4人	0人	5人	0人	0人
女性採用比率	16.2%	3.4%	24.0%	9.5%	12.5%
新卒3年以内離職人数	0人	6人	2人	4人	7人
新卒3年以内離職率	0.00%	13.64%	4.44%	7.41%	17.07%
産前産後休暇取得人数	2人	1人	3人	3人	1人
育児休職取得人数	5人	7人	8人	10人	10人
育児短縮時間勤務人数	12人	11人	11人	10人	10人
介護休職取得人数	1人	0人	2人	2人	0人
男性従業員の育児休業取得率	—	—	—	—	50.0%
男女の賃金の差異（全従業員）*	—	—	—	—	66.7%
男女の賃金の差異（正規従業員）*	—	—	—	—	66.5%
男女の賃金の差異（パート・有期従業員）*	—	—	—	—	80.0%

※男女の賃金の差異については、賃金制度・体系において性別による差異はなく、主に男女間の管理職比率および雇用形態の差異によるものです。

集計対象期間

2022年度（2022年4月1日~2023年3月31日）

発行サイクル

年1回（前回発行：2022年9月）

参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン（2018年版）」および「GRIスタンダード（サステナビリティ報告ガイドライン）」

対象事業所

〈国内〉

八千代工業

本社および柏原工場（埼玉県狭山市）

鈴鹿工場（三重県鈴鹿市）

亀山事業所（三重県亀山市）

栃木研究所（栃木県さくら市）

埼玉研究所（埼玉県狭山市）

国内子会社

合志技研工業株式会社（熊本県合志市）

株式会社ウエムラテック（熊本県球磨郡あさぎり町）

〈海外〉

八千代工業 海外子会社

ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド（米国）

エー ワイ マニュファクチュアリング リミテッド（米国）

ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド（米国）

ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アメリカ エル エル シー（米国）

ヤチヨ メキシコ マニュファクチュアリング エス エー デ シー ブイ（メキシコ）

ヤチヨ ド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ペサス リミターダ（ブラジル）

八千代工業（中山）有限公司（中国）

八千代工業（武漢）有限公司（中国）

サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド（タイ）

ヤチヨ インディア マニュファクチュアリング プライベート リミテッド（インド）

ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア（インドネシア）

合志技研工業 海外子会社

サイアム ゴウシ マニュファクチュアリング カンパニー リミテッド（タイ）

ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド（ベトナム）

ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド（インド）

ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド（フィリピン）

〈対象としていない子会社および関連会社〉

- 対象期間における事業活動を行っていません。
ラグナ アソシエ リアルティ インコーポレーテッド（フィリピン）
- 事業活動を現地賃貸事務所でっており、含めていません。
ヤチヨ ジャーマニー ゲー エム ベー ハー（ドイツ）



八千代工業株式会社

〒350-1335 埼玉県狭山市柏原393番地

TEL : 04-2955-1211 (代表)



発行2023年10月